

NEW ARRIVAL! 撮影：松川泰治

フィル・ジョーンズ・ベースの 新たなベース・キャビネット3モデルを徹底紹介！

PHIL JONES BASS

フィル・ジョーンズ・ベース

CAB-47

キャブ・フォー・セヴン

COMPACT-4

コンパクト・フォー

COMPACT-4 LITE

コンパクト・フォー・ライト

価格：各オープン・プライス(実勢価格：¥48,000前後)
問：ジェーイーエスインターナショナル(TEL.0561-72-9801)
<http://www.pbjapan.com>

ブリーフケース、スーツケース、セッション77などのベース・コンボ・アンプをはじめ、D-400、D-600のベース・アンプ・ヘッド群、さらにベーシストのために開発された、全く新しいモニター・スピーカー・イヤホン・ボックスを発表するなど、常にエポックメイキングな製品をリリースし続けているフィル・ジョーンズ・ベース。そしてこの4月に、ベース用キャビネット3モデルが新たに登場した。池田達也がこの3台を試奏し、それぞれの特徴、魅力についてたっぷり語ってもらった。



「設計者フィル・ジョーンズの アイデアがふんだんに 盛り込まれた魅力あふれる キャビネットたち」池田達也

池田達也 TATSUYA IKEDA

PROFILE MALTA(sax)や寺井尚子(vln)のグループの参加を経て、現在は自己が主宰する“たつや せつしょん”をはじめ、さまざまなセッション、スタジオ・ワークなどで活躍中。ウッド・ベースとエレクトリック・ベースの双方のみならず、アレンジやサウンド・プロデュースとしても活躍。リーダー・アルバム『たつや せつしょん - 其ノ巻 -』(TATE-001 / 販売：ダイキサウンド)大好評。
<http://www007.upp.so-net.ne.jp/tatsuya-bass/>

CAB-47

CAB-47は、先発されたコンボ・アンプのSession77のサウンドをパワフルかつディープにした印象で、音を出した瞬間に「ズドン」と体に響く低域の鳴りが心地良く、一回り大きいキャビネット(以下キャビ)を彷彿させるサウンドと音圧が得られます。フィル・ジョーンズ・ベース(以下PJB)のキャビとしては、初となるツイーターの搭載により、スラップ時のブル音が実にイイ感じに響いてくれます。誤解を恐れずに述べるなら、これまでのPJBの方向性とはまた異なる印象を受け

ましたが、重心の低いズ太いサウンドは魅力的で、PJBらしいスピード感のあるサウンドや1音1音の粒立ちの良さは健在ですから、既存のPJBのキャビになじめなかった方やキャラクターの違うキャビを探している方にはぜひ試していただきたいモデルです。

一般的にスピーカーの口径が大きくなるほど低音再生には有利なものの、口径が大きくなるにつれスピーカーの動きが鈍くなり音のスピード感も損なわれるとされています。そんな理由もあってPJBでは5インチのスピーカーが採用され、それがPJBの個性でもあったのですが、7インチと口径が大きくなった

にも関わらず、音のスピード感が損なわれていない点には驚かされました。音圧を体で感じたいベーシストは少なくないかと思いますが、音圧のレベルを上げるためには大口径のスピーカーを搭載した大型のキャビが必要とされていて、僕も10年ほど前までは冷蔵庫のような大型のシステムを使っていました。当時使っていた10インチ・スピーカーを4発搭載(以下4×10)のキャビは約60cm四方の

▶▶▶ CAB-47

SPEC スピーカー：4×7(PJB Woofers)+3″Tweeter インピーダンス：8 周波数特製：35Hz-15KHz
耐久入力：300W サイズ：415(H)×320(D)×430(W)mm 重量：17.5Kg 重量：1.28 kg



PJB初となるバスレフ・ポートを4つ搭載。スピーカーは7インチ×4発+3インチツイーターを搭載！



大きなステージなどで威力を発揮する2段スタック。スピード、レスポンスのよさを失わず、さらにパワフルな音量と音圧を得ることが可能。PJBのアンプ・ヘッドD-400との相性は抜群だ。



であればスタックでの使用がおすすめです。

一方、アコースティックな環境では単体のほうが扱いやすいでしょう。CAB-47は、キャビのバック(背面)にバスレフ・ポートが装備されているため、壁との距離や設置場所が低域の聴こえ方が違ってきますから、セッティングの際はイコライザーを操作する前にキャビを置く位置をいろいろと試してみることをおすすめします。アンプ・ヘッドのD-400の実勢価格が8万円弱、CAB-47は5万円弱だそうですから、D-400とCUB-47を2台購入しても合計で20万円以下で収まるわけですが、サイズを超えた大音量と音圧を誇るプロ・スペックのシステムが安価に入手できるようになったことを素直に嬉しく思います。

COMPACT-4(C4)

PJBを象徴するクリアでクセのないサウンドを誇り、約35cm四方で13Kgと手頃なサイズからは想像ができないほどの重低音と音量が得られ、繊細なピッキングにも反応する追随性が抜群ですから、僕も発売と同時に入手し愛用しているキャビです。存在感のあるサウンドでアンサンブルの中での音抜けも良く、同程度のサイズや重量で、これほどまでにパワフルなキャビを僕は他に知りません。その名の通りコンパクトですから設置場所を選ばず扱いやすくして何かと重宝しています。この度スピーカーがマイナー・チェンジされ、音のスピード、輪郭、透明度、解像度、

低域から高域までのバランス、レンジの広さ、そのすべてにおいてパワー・アップした印象を受けました。

スピーカーのセンター・キャップ部が尖った形状となり、サウンド面のみならずルックス的にもシャープに生まれ変わっていて、スピーカー・デザイナーとしてオーディオ界でも評価の高い設計者フィル・ジョーンズの才能を改めて見せつけられたらた気がします。PJBの真骨頂とも言える時代の先端をいく極上のベース・サウンドが体感できますので、PJBのサウンドを未体験の方はもちろん、すでにPJBのコンボ・アンプなどをお持ちのにもぜひ試していただきたいキャビです。小さな音量でも音が冴えることがありませんし、微妙なタッチの違いにも反応してくれますので、ライブの本番のみならずリハーサルや毎日の練習にもおすすめです。

COMPACT-4 LITE(C4L)

ギター、ベースを問わず世界的に小型軽量キャビの需要が高まっているようで、PJBの本拠地アメリカでも軽量キャビを求めるベジストが少なくないそうですが、PJBは小型軽量ベース・アンプのバイオニアでもありますから、C4Lが耐久入力400Wのスペックを誇りつつ、10Kgに満たない重量を実現させ、かつサウンドのクオリティもキープしていることは、PJBの技術力の高さの証明とも言えるでしょう。

大きさと重さが約40Kgもあり運搬やセッティングが大変だったのですが、CAB-47は約40cm四方&17.5kgのコンパクトなサイズにも関わらず、従来の4×10のキャビを凌駕するヴォリューム感と音圧を誇っています。さらに2台のCAB-47をスタック(2段重ね)で鳴らすと音量と音圧が増し、多くのベーシストが欲する体の芯まで響く重低音が得られ、一旦スタックを体感してしまうと単体での使用が物足りなく感じてしまうほどです。大規模なフェスティバルや野外イベント・ステージでも対応可能な音量に加え、どっしりと重心の低いサウンドと音圧を体で感じたいの

COMPACT-4

SPEC スピーカー：4×5インチフル・レンジPiranha) インピーダンス：8 Ω 周波数特製：Hz-KHz
耐久入力：400W サイズ：340(H)×320(D)×360(W)mm 重量：13.0Kg



新たにスピーカーがモデル・チェンジ。音のスピード、解像度がさらにアップ。シルバー・コーンも目を惹くデザインとなった。



シンプルなレイアウトのバック部分。こちらモスピコン・ジャック2コ(INPUT、LINK)を搭載。

COMPACT-4 LITE

SPEC スピーカー：4×5インチフル・レンジNeo Power) インピーダンス：8 Ω 周波数特製：Hz-KHz
耐久入力：400W サイズ：340(H)×320(D)×360(W)mm 重量：9.9Kg



5インチのフル・レンジのNeo Powerを4基搭載。これにより、上記のC4より約3kgも軽量化に成功している。



左がC4、右がC4L。重量は異なるが、両モデルとも同じサイズとデザインとなっている。

先述したC4より約3kgも軽くなっているのですが、実際に手にして比べてみると数値以上の大きな違いを感じます。小規模のライブを行なっているお店には狭い階段で機材の搬入搬出を行なわねばならないところも多く、僕自身も機材搬入時に腰を痛めた経験がありますから、片手で容易に持ち運べるキャビには大いに魅力を感じます。アンプ・ヘッドのD-400が1.3kgなので両方合わせても11kg強ですから、電車でも無理なく“マイ・アンプ”が運べてしまうわけですが、アクテ

ィヴに活動する現代のベーシストにとって機材運搬時の負担の軽減が大きなアドヴァンテージとなることは間違いありません。ネオジューム・マグネットのスピーカーは、高域がマイルドでウォームなサウンドが得られるので、僕はウッド・ベースやフレットレス・ベースとの相性の良さが気に入っているのですが、このC4Lにもネオジュームの特性が顕著に表われていて、重量云々を抜きにしてもサウンド面での選択肢のひとつとして魅力を感じました。

